2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	統計処理 23p301	担当教員 （実務経験）	吉田　香織 有 ☑　無 ☐　道内の総合病院に理学療法士として10年以上勤務		
対象年次・学期	3年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	8	時間数	15時間
授業目的	卒業研究に向けて、文献検索・統計処理方法を学び、実践する。プレゼンテーション技術の向上を目標とする。最終的には、ツールを使用した効果的な発表方法を身につけ、卒業論文への足がかりとする。				
到達目標	・Power Pointを用いたﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝを作成することができる。 ・Excelを用いた基本的な統計学的手法について実施できる。				
テキスト・参考図書等	15レクチャーシリーズ、リハビリテーション統計学				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	提出物にて評価。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	100%	
	その他	%	

履修上の留意事項	この科目で学んだことが卒業研究に活かされる。講義と演習を組み合わせて行うため、積極的に実践すること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	統計処理の実際1	代表値の算出、グラフの作成
	2	統計処理の実際2	t検定の手順（1）
	3	統計処理の実際3	t検定の手順（2）
	4	統計処理の実際4	t検定の手順（2）
	5	統計処理の実際5	散布図、相関係数
	6	統計処理の実際6	分割表・まとめ
	7	プレゼンテーション、資料作成1	スライドの編集、ビジュアル効果
	8	プレゼンテーション、資料作成2	資料作成、リハーサル機能等の各種操作、プレゼンテーション資料の制作と活用
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	倫理学 23p302	担当教員 （実務経験）	尾形　敬次 有 ☐　無 ☑　市内専門学校、大学にて哲学・生命倫理学等の教育に30年以上に渡り従事		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	近年では健康保険制度の改革が問題になり、特にその一般的な政策である構造改革の理解にまで立ち入る必要があった。この種の問題は医療システムと直接的な関係と緊急性があるので、相応の時間を取って理解を深めてもらう。そこで最新の社会現象について、随時考察を試みてもらう。この考察の結果を授業にフィードバックさせる。これは状況の変化に対応させるため、前もってシラバスの中で予告することはできない。以上のように、学生の習熟度と社会状況の関係の中で講義を進めるので、時間ごとの講義内容をシラバスであらかじめ指示することはできず、下はあくまで目安となる講義計画である。知識として習得すべき内容はほぼ以下の通りであり、講義はおおむねこの順序に沿って進められるが、テーマによっては数時間かけて議論する。				
到達目標	この講義は医療者としての態度を形成することが目標である。したがって、倫理学的議論の知識を持つべきことは無論のこと、それを通して何よりもまず、医療者としての社会的、道徳的立場を確立することが目標となる。認識すべき重要なことは、他人の生命、健康を左右するため、医療者としての責任は、他の職種よりも大きいことである。つまり、一般の大人以上の高い道徳性が医療者には求められる。従って、他の講義とは異なり、ここでは知識の習得ばかりでなく、道徳的態度の確立が優先課題となる。一方、医療を巡る社会状況はめまぐるしく変化する場合がある。その変化の中でも医療者としての自分の立場を確立することがこの授業の目標である。				
テキスト・参考図書等	特に指定しない				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	50%	授業時間に提起する課題と期末試験の総合
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	50%	
	その他	%	

履修上の留意事項	ノートを取ること 講義の中では講義ばかりでなく、その態度の確立に関与する問いを立て、随時考察してもらう。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	民主主義社会	民主主義社会の主旨、制度の認識
	2	民主主義社会	民主主義社会の主旨、制度の認識
	3	福祉社会	社会福祉の理念と実際を知ること
	4～15	生命倫理学	1. 医療を巡る社会背景、2. 医療を巡る第二次大戦後の変化、3. CureからCareへ、4. 患者の自己決定権とインフォームド・コンセント、5. 脳死臓器移植と生命倫理学的問題、6. 再生的クローンと治療的クローン、7. 尊厳死と安楽死、8. 生命と人間の尊厳

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	社会福祉学 23p303	担当教員 （実務経験）	鈴木　道代 有 ☐　無 ☑		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	社会福祉とは何か、それを必要とする人々や生活とはどういう状況であるかを理解することが目的である。また、現在の社会福祉の理念、様々な社会福祉法制の仕組み、サービス体系についても学習する。以上を踏まえて、現代社会において社会福祉を必要とする人々への理解を深めてもらいたい。				
到達目標	①「社会福祉」という概念を理解できる。 ②生活との関連で社会福祉を必要とする対象者を理解できる。 ③様々な社会福祉法制・サービス体系を理解し、その概略を説明できる。 ④①～③の理解を通して生活における社会福祉の必要性を説明できるようになる。				
テキスト・参考図書等	プリント配布（各自ファイリングし、毎回持参すること） なお、公欠以外のプリント再配布はしない 参考書:『社会福祉用語辞典』山縣文治ら編（2013）ミネルヴァ書房、『現代の社会福祉』鈴木幸雄編（2012）中央法規　など				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	90%	定期試験、提出物点を合算して評価を行う
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	10%	
	その他	%	

履修上の留意事項	
	後半の授業では視聴覚機材を用いる。 また、学生に意見を求める場合、積極的な発言を求める。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション 社会福祉の意義①～社会福祉とは何かを考える	・授業の説明 ・社会福祉の定義
	2	社会福祉の仕組みと生活①～生活概念を学ぶ	・生活概念について
	3	社会福祉の仕組みと生活②～社会福祉の仕組みと対象者、法的枠組みを学ぶ	・社会福祉の対象を学生に確認する　・社会福祉の対象について説明する ・社会福祉法、社会福祉法制について説明する ・社会福祉の利用形態・給付形態を説明する
	4	社会福祉の利用形態と援助方法①～社会福祉を担う専門職とソーシャルワークの視点について学ぶ	・社会福祉を担う専門職　・ソーシャルワークの視点 ・コミュニケーションの構成要素
	5	社会福祉の利用形態と援助方法②～社会福祉で活用する援助方法を事例から学ぶ	・個別援助技術について説明　・バイスティックの7原則 ・関連援助技術
	6	現代社会の変化～現代社会の人口動態や家族構成の変化を学ぶ	・年齢3区分　・少子社会・高齢社会の現状 ・家族形態の変化・家族観・機能
	7	児童家庭福祉①～児童家庭福祉の概要と児童虐待防止法を学ぶ	・児童福祉の概念　・児童福祉法・児童憲章 ・児童虐待防止法　・児童養護施設（DVD視聴）
	8	児童家庭福祉②～ひとり親家庭への支援と特別養子縁組を学ぶ	・ひとり親家庭の実態と施策 ・特別養子縁組について（DVD視聴）
	9	障害者福祉①～障害概念とノーマライゼーションを学ぶ	・障害概念　・ノーマライゼーション （DVD視聴）
	10	障害者福祉②～障害者福祉の対象、就労、障害者差別解消法を学ぶ	・障害者福祉の対象　・障害者雇用促進法 ・障害者差別解消法　・DVD（発達障害）視聴
	11	低所得者福祉①～貧困概念とその現状、貧困の連鎖について学ぶ	・絶対的水準論、相対的水準論 ・集団の連鎖（DVD視聴）
	12	低所得者福祉②～生活保護の概要、実態、生活困窮者自立支援の概要を学ぶ	・生活困窮者自立支援（DVD視聴） ・生活保護法
	13	高齢者福祉①～介護保険制度の概要を学ぶ	・介護保険制度
	14	高齢者福祉②～高齢者概念と老化、生きがいについて学ぶ	・高齢者の定義 ・老化と生きがい
	15	高齢者福祉③～認知症高齢者の現状を学ぶ	・高齢期の身体的特性と精神的特性 ・DVD視聴

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	薬理学 23p304	担当教員 （実務経験）	竹本　功 有 ☑　無 ☐　薬学博士。道内医科大学病院等にて薬剤師として40年以上の勤務経験を有する		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	8	時間数	15時間
授業目的	患者のQOL改善には職能間での情報交換が必要であり、特に医薬品の関与が欠かせず、その基本的な知識により幅広い情報提供ができること。				
到達目標	1）医療人として、医薬品の重要性を理解すること。 2）チーム医療の一員として、主な医薬品の主作用と副作用、取扱い、薬物療法の習得をすること。				
テキスト・参考図書等	わかりやすい　薬理学　第3版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験において、100点満点中60点以上が合格とする。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	2コマ単位で授業を進行する。講義終了5～10分前に復習を行う。特に、総論・末梢神経作用薬・中枢神経作用薬・抗炎症薬・ホルモン系作用薬・抗感染症薬を中心に講義をする。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	総論（1）	薬理学の概念、主作用と副作用、薬物動態と薬効
	2	総論（2）	小児・妊婦・高齢者の薬物治療、医薬品の規制と保管・管理
	3	末梢神経作用薬、中枢神経作用薬①	自律神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬、全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬、鎮静睡眠薬
	4	中枢神経作用薬②、循環器系作用薬①	向精神薬、抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬、降圧薬、心臓作用薬、腎臓作用薬
	5	循環器系作用薬②、抗炎症薬	血液造血器系作用薬、非ステロイド性消炎鎮痛薬、その他
	6	呼吸器系作用薬、消化器系作用薬	気管支喘息治療薬、鎮咳薬、胃炎・抗消化性潰瘍薬、催吐薬・制吐薬、催下薬
	7	ホルモン系作用薬、抗感染症薬	糖尿病治療薬、骨粗鬆症治療薬、抗菌薬
	8	消毒薬・抗がん剤、補習	種類と使用方法・抗がん剤、プリント・スライド
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	チーム関係論 23p305	担当教員 （実務経験）	目黒　文彦 有 ☑　無 ☐　道内病院にて作業療法士として14年勤務		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	8	時間数	15時間
授業目的	リハビリテーションにおけるチームアプローチの重要性を学び、関連他職種に対する理解を深める。				
到達目標	リハビリテーションにおけるチームアプローチの重要性を理解する。				
テキスト・参考図書等	特に指定しません				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	提出課題の内容により評価。
	レポート	100%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	良質のリハビリテーションサービスの提供には、関係職種との連携が不可欠であり、そのためには各職種の役割を理解する必要がある。関連職種の講義内容はレポートにまとめておくこと。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	チームアプローチ	リハビリテーションにおけるチームアプローチの重要性を知る
	2	職種間の相互理解	理学療法士と作業療法士の相互理解が連携の基礎であることを知る
	3	医療ソーシャルワーカーとは	医療ソーシャルワーカーの仕事、チームワーク
	4	理学療法士とは	理学療法士の仕事、チームワーク
	5	作業療法士とは	作業療法士の仕事、チームワーク
	6	言語聴覚士とは	言語聴覚士の仕事、チームワーク
	7	看護師とは	看護師の仕事、チームワーク
	8	チーム連携のありかた	グループ討議とまとめを通じて連携の重要性への理解を深める
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		

授業科目 （科目ID）	チーム関係論 23p305	担当教員 （実務経験）	竹中　謙将 有 ☑ 無 ☐ 道内の病院で10年、老人保健施設で7年、理学療法士として勤務
対象年次・学期	3年・前期	担当教員 （実務経験）	和田　英峰 有 ☑ 無 ☐ 市内病院にて作業療法士として8年勤務
授業形態	講義		
		担当教員 （実務経験）	佐々木　勇輝 有 ☑ 無 ☐ 道内児童福祉施設にて言語聴覚士として6年間勤務
		担当教員 （実務経験）	齋藤　麻衣子 有 ☑ 無 ☐ 道内病院にて看護師として4年勤務
		担当教員 （実務経験）	綾部　潤和 有 ☑ 無 ☐ 道内病院にて医療ソーシャルワーカーとして勤務
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　専門学校北海道リハビリテーション大学校　理学療法学科

授業科目（科目ID）	地域包括マネジメント論 23p306	担当教員 （実務経験）	武田　祐貴 有 ☑　無 ☐　市内脳神経外科病院にて理学療法士として12年間勤務		
対象年次・学期	3年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	8	時間数	15時間
授業目的	多様な健康レベルの人の在宅移行可能性を推進するために、関連する保健医療福祉の諸制度や歴史を概観し、質の高い在宅リハを提供するために必要な知識であるケアマネジメント、関係機関・職種の役割と関係性を学ぶ。				
到達目標	幅広い在宅リハにおける活動の展望を見据え、地域における活動の現状の分析を行い、生活の質を重視した退院支援・調整、地域のネットワーク構築の方法やあるべき制度について理解する。				
テキスト・参考図書等	ライフステージから学ぶ地域包括リハビリテーション実践マニュアル 地域包括ケアにおけるPT・OTの役割				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験において、100点満点中60点以上が合格とする。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	高齢化の進展に伴う医療需要の増大や、地域包括ケアシステムの構築などにより、理学療法士に求められる役割や知識が変化している。理学療法士を取り巻く環境の変化に対応できるよう学ぶこと。

履修主題・履修内容		履修主題	履修内容
	1	地域リハ活動・地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムの概要を学ぶ
	2	地域リハにおける関連諸制度	地域リハに関連する諸制度について学ぶ
	3	地域リハにおける関連他職種	地域リハに関連する他職種について学ぶ
	4	地域生活への移行	退院時に必要な地域生活の準備について学ぶ
	5	地域生活におけるライフステージごとの課題	各年代における地域生活の課題について学ぶ
	6	地域包括ケアと多職種連携1	他学科の学生とのグループワークを通じて多職種連携を学ぶ （自己紹介、各専門職種の特徴）
	7	地域包括ケアと多職種連携2	他学科の学生とのグループワークを通じて多職種連携を学ぶ （各専門職学生による事例検討）
	8	地域包括ケアと多職種連携3	他学科の学生とのグループワークを通じて多職種連携を学ぶ （発表）
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	理学療法概論Ⅱ 23p307	担当教員 （実務経験）	吉田　香織 有 ☑　無 ☐　道内の総合病院に理学療法士として10年以上勤務		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	8	時間数	15時間
授業目的	・理学療法士に求められる資質について再考し、自らの課題を確認する。理学療法を実施する上で必要な記録、リスク管理等について学ぶ。				
到達目標	・理学療法に必要な記録、医療安全、リスク管理等について理解を深め、臨床での実践に繋げる。				
テキスト・参考図書等	公衆衛生がみえる　第3版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	履修した内容を単なる知識と捉えるのではなく、今後、自分が「どのような姿勢で臨床に臨むか」を考えること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション、「2年間の振り返りと今後に向けて」、PTの脂質とは1	授業オリエンテーション　グループ討議
	2	PTの資質とは2	グループ討議・発表
	3	公衆衛生、健康の概念と理学療法	公衆衛生の概念について学習する
	4	医療の質と安全の確保1	医療の質の評価、リスクについて学習する
	5	医療の質と安全の確保2	医療の場面でのリスクマネージメントについて学習する
	6	院内感染対策	感染予防、感染対策について学習する
	7	診療記録	臨床で必要な記録、報告書について学習する
	8	診療報酬	診療報酬について学習する
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	理学療法研究法Ⅲ 23p308	担当教員 （実務経験）	吉田　香織 有 ☑　無 ☐　道内の総合病院に理学療法士として10年以上勤務		
対象年次・学期	3年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	理学療法における研究法の概要を学ぶ。また研究を進めたり論文を理解するために不可欠な統計学の知識についても学習する。				
到達目標	・研究を進める上で必要な情報収集・文献の読み方・問題の掘り下げ方・科学的思考・論文の書き方・報告の仕方等について理解する。 ・学生が選んだテーマに沿って、インフォームドコンセントや統計手法を組み立て実践する。				
テキスト・参考図書等	最新理学療法学講座　理学療法研究法　　公衆衛生がみえる　第3版 15レクチャーシリーズリハビリテーションテキスト　リハビリテーション統計学				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	研究手法について学習することは、文献の知識を活用し臨床に役立てることに繋がる。暗記ではなく理解することを心がけること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション、研究とは	オリエンテーション、研究の意義、概要、研究の流れ
	2	研究デザインの基礎知識	研究デザインの概要、種類について学習する
	3	卒論発表聴講	卒業論文発表会を聴講する
	4	論文の種類と構成	論文の種類、構成について学習する
	5	文献検索・文献の要約	文献検索の方法について学び文献を要約する
	6	文献の読み方	文献の批判的精読を行う
	7	EBM・EBPT	EBMの概要と手法
	8	ｲﾝﾌｫｰﾑﾄﾞ・コンセント	信頼できる研究を行うためには（信頼性、妥当性）
	9	統計学的解析の進め方1	データの尺度・特性・グラフ
	10	統計学的解析の進め方2	推定と検定の基礎1
	11	統計学的解析の進め方3	推定と検定の基礎2
	12	統計学的解析の進め方4	推定と検定の基礎3
	13	統計学的解析の進め方5	診断・検査の指標（感度、特異度）
	14	研究方法論1	研究対象、方法、研究計画の立て方
	15	研究方法論2	先行研究の活用・インフォームドコンセントの実際

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	理学療法評価法Ⅲ 23p308	担当教員 （実務経験）	元木　純 有 ☑　無 ☐　市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	・理学療法評価に必要な検査・測定手技の正確性、迅速性、再現性を養い、これまでに学習した評価法の知識・技術を確実なものとする。 ・理学療法評価の臨床応用の方法について学ぶ。 ・得られた理学療法評価の結果を治療に結びつけるための思考過程を学ぶ。				
到達目標	・代表的な疾患に対する理学療法評価の臨床応用について学び、治療に結びつけるための思考過程と実践能力を身につける。				
テキスト・参考図書等	PT・OTのための臨床技能とOSCE　コミュニケーションと介助・検査測定編　第2版補訂 PT・OTのための臨床技能とOSCE　機能障害・能力低下への介入編 理学療法評価学　改訂第6版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	実技試験において、100点満点中60点以上が合格とする。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	・事前に必要な知識について復習をして臨むこと。 ・授業は動きやすい、実習がしやすい格好で臨むこと。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	脳血管疾患の評価と介助、治療①	主に脳卒中片麻痺患者の評価、介助における臨床応用の方法に関する実技 得られた評価結果を治療につなげるための思考過程の学習
	2	脳血管疾患の評価と介助、治療②	
	3	脳血管疾患の評価と介助、治療③	
	4	脳血管疾患の評価と介助、治療④	
	5	神経筋疾患の評価と介助、治療①	主にパーキンソン病患者の評価、介助における臨床応用の方法に関する実技 得られた評価結果を治療につなげるための思考過程の学習
	6	神経筋疾患の評価と介助、治療②	
	7	神経筋疾患の評価と介助、治療③	
	8	神経筋疾患の評価と介助、治療④	
	9	運動器疾患の評価と介助、治療①	運動器疾患の評価、介助における臨床応用の方法に関する実技 得られた評価結果を治療につなげるための思考過程の学習
	10	運動器疾患の評価と介助、治療②	
	11	運動器疾患の評価と介助、治療③	
	12	運動器疾患の評価と介助、治療④	
	13	脳血管疾患のまとめ	これまでに学習した内容についてのまとめ
	14	神経筋疾患のまとめ	
	15	運動器疾患のまとめ	

授業科目 （科目ID）	理学療法評価法Ⅲ 23p308	担当教員 （実務経験）	山内　真帆 有 ☑ 無 ☐ 道内の病院で理学療法士として8年勤務
対象年次・学期	3年・前期	担当教員 （実務経験）	武田　祐貴 有 ☑ 無 ☐ 市内脳神経外科病院にて理学療法士として12年間勤務
授業形態	演習		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	物理療法実習 23p310	担当教員 （実務経験）	吉田　智子 有 ☑　無 ☐　市内整形外科で理学療法士として10年以上勤務		
対象年次・学期	3年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）	23	時間数	45時間
授業目的	2年次の物理療法に続き、各療法についての定義、目的、効果と適応、手段、リスク管理など実習を通じて学ぶ。				
到達目標	各療法についての定義、目的、効果と適応、手段、リスク管理などを学び、症状に対して適切な方法を選択・実施できる。 事象の説明に必要な研究を組み立て、実施できる。 研究テーマについて他者に説明できる。				
テキスト・参考図書等	理学療法学テキストX　物理療法　第2版　　神陵文庫				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	90%	定期試験90%、提出物、発表内容10%にて評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	10%	

履修上の留意事項	講義と実際の物理療法機器を使用した実習を組み合わせて行うため、欠席しないように心がけること。また、グループワークでは研究報告書をまとめる力も必要となるため、日頃から論文などに目を通すように心がけること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	
	2	電気について	電気刺激の要素
	3	低周波療法	末梢神経障害の通電療法
	4	低周波療法	末梢神経障害の通電療法
	5	低周波療法	末梢神経障害の通電療法
	6	低周波療法	末梢神経障害の通電療法
	7	光線療法	光線療法の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、作用機序、リスク管理について
	8	光線療法	光線療法の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、作用機序、リスク管理について
	9	牽引療法	頸椎牽引・腰椎牽引
	10	牽引療法	頸椎牽引・腰椎牽引
	11	マッサージ	手技
	12	マッサージ	手技
	13	水治療法	部分浴・全身浴
	14	水治療法	部分浴・全身浴
	15	水治療法	部分浴・全身浴

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・ 履修内容	16	グループワーク	グループごとでの研究
	17	グループワーク	グループごとでの研究
	18	グループワーク	グループごとでの研究
	19	グループワーク	グループごとでの研究
	20	グループワーク	グループごとでの研究
	21	グループワーク	グループごとでの研究
	22	グループ発表	研究発表
	23	グループ発表	研究発表

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	日常生活活動Ⅱ 23p311	担当教員 （実務経験）	竹中　謙将 有 ☑　無 ☐　道内の病院で10年、老人保健施設で7年、理学療法士として勤務		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	1・2年次で履修したADLⅠ・ADL実習を発展させ、臨床応用できるようADLに対するアプローチについて調べ・理解し、説明する機会を設けることで、学習する。				
到達目標	①各疾患の特徴と環境に合わせた動作方法を検討できる。 ②患者を想定した状況で動作介助ができる。 ③車椅子処方ができる。				
テキスト・参考図書等	PT・OTビジュアルテキスト　ADL 姿勢と動作　第3版　ADLその基礎から応用				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	筆記試験70点、実技試験30点の合計100点で評価する。60点以上を合格とし、60点に満たないものは再試験の筆記試験100点中60点以上を合格とする。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	より実践的なADLアプローチのためには、詳細な評価と具体的な生活のイメージが重要となる、そのことを念頭において学習を進めること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	
	2	各疾患のADL	各疾患の特徴と起居動作の方法をまとめ、発表する
	3	各疾患のADL	各疾患の特徴と起居動作の方法をまとめ、発表する
	4	各疾患のADL	各疾患の特徴と起居動作の方法をまとめ、発表する
	5	各疾患のADL	各疾患の特徴と起居動作の方法をまとめ、発表する
	6	介助法の基本	介助の原則を学ぶ
	7	介助法の基本	介助の原則を学ぶ
	8	安全な介助法・工夫	片麻痺・対麻痺患者のADLでの介助法を学ぶ
	9	安全な介助法・工夫	片麻痺・対麻痺患者のADLでの介助法を学ぶ
	10	車椅子の基礎	車椅子の基礎について学ぶ
	11	車椅子の基礎	車椅子の基礎について学ぶ
	12	車椅子の採寸	車椅子の採寸方法のついて学ぶ
	13	車椅子の採寸	車椅子の採寸方法のついて学ぶ
	14	障害者スポーツ	障害者スポーツの紹介
	15	障害者スポーツ	障害者スポーツの紹介

授業科目 （科目ID）	日常生活活動Ⅱ 23p311	担当教員 （実務経験）	梅田　信吾 有 ☑ 無 ☐ 道内の病院・障害者施設にて理学療法士として30年以上勤務
対象年次・学期	3年・前期	担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
授業形態	演習		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	義肢装具学 23p312	担当教員 （実務経験）	小野　直也 有 ☑　無 ☐　市内回復期病院にて理学療法士として5年間勤務		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	義肢装具の基本を学ぶ。義肢の理解を深める。PTとして義足に関する最近の動向を理解する。手の装具についての理解を深める。				
到達目標	・切断の意義を説明できる。 ・義肢の役割を機能的に、運動学・運動力学的に説明できる。				
テキスト・参考図書等	15レクチャーシリーズ理学療法テキスト義肢学 参考図書：義肢装具のチェックポイント第7版、切断と義肢				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	力学的な視点からの考察が必要となる。具体的にイメージできるように積極的に学ぶこと。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	義肢学	切断の部位・原因、義足の基礎知識
	2	義肢学	義足のベンチアライメント、大腿義足のソケット
	3	義肢学	大腿義足の膝継手・装着部品
	4	義肢学	大腿義足のベンチアライメント、スタティックアライメント
	5	義肢学	大腿義足のダイナミックアライメントと異常歩行
	6	義肢学	下腿義足のソケット
	7	義肢学	下腿義足のベンチアライメント、スタティックアライメント、ダイナミックアライメント
	8	義肢学	サイム切断、股義足、義足の足部
	9	義肢学	切断の良肢位保持、幻肢痛について、義足でのADL
	10	義手学	義手
	11	装具学	上肢装具
	12	義肢学	義足の基礎と臨床応用
	13	義肢学	義足の基礎と臨床応用
	14	義肢学	義足の基礎と臨床応用
	15	義肢学	義足の基礎と臨床応用

授業科目 （科目ID）	義肢装具学 23p312	担当教員 （実務経験）	小野　直也 有 ☑ 無 ☐ 市内回復期病院にて理学療法士として5年間勤務
対象年次・学期	3年・前期	担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
授業形態	演習		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	義肢装具学実習 23p313	担当教員 （実務経験）	武田　祐貴 有 ☑　無 ☐　市内脳神経外科病院にて理学療法士として12年間勤務		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）	23	時間数	45時間
授業目的	装具に関する基礎的知識と疾患ごとの適応、適合判定について学習する。				
到達目標	①理学療法における装具の意義を理解し、説明できる。 ②疾患ごとの適応を理解し、説明することができる。 ③装具の適合判定を実施できる。				
テキスト・参考図書等	15レクチャーシリーズ理学療法テキスト装具学 参考図書：義肢装具のチェックポイント（第7版）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	装具は覚えることが多いので、日々集中して取り組むこと。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	装具総論	装具の定義、歴史、目的等について学習する
	2	装具総論	装具の定義、歴史、目的等について学習する
	3	靴型装具	靴型装具、シューインサートなどの構造、種類、特徴について学習し、靴型装具の適合判定について学習する
	4	靴型装具	靴型装具、シューインサートなどの構造、種類、特徴について学習し、靴型装具の適合判定について学習する
	5	下肢装具	下肢装具の構造、種類、特徴について学習する
	6	下肢装具	下肢装具の構造、種類、特徴について学習する
	7	下肢装具	短下肢装具について学習する
	8	下肢装具	短下肢装具について学習する
	9	下肢装具	長下肢装具について学習する
	10	下肢装具	長下肢装具について学習する
	11	下肢装具（ロボティクス）	ロボティクスについて学習する
	12	下肢装具（ロボティクス）	ロボティクスについて学習する
	13	下肢装具	下肢装具の適合判定について学習する
	14	下肢装具	下肢装具の適合判定について学習する
	15	上肢装具と自助具	上肢装具と自助具について学習する

授業科目 （科目ID）	義肢装具学実習 23p313	担当教員 （実務経験）	近藤 健 有 ☑ 無 ☐ 小児施設にて理学療法士として10年以上勤務
対象年次・学期	3年・前期	担当教員 （実務経験）	元木 純 有 ☑ 無 ☐ 市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務
授業形態	実習	担当教員 （実務経験）	目黒 文彦 有 ☑ 無 ☐ 道内医療機関にて作業療法士として14年勤務
		担当教員 （実務経験）	外部講師 有 ☑ 無 ☐ 市内病院勤務の理学療法士
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	運動器障害理学療法学実習 23p314	担当教員 （実務経験）	元木　純 有 ☑　無 ☐　市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務		
対象年次・学期	3年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）	23	時間数	45時間
授業目的	各関節の解剖学的特徴から評価・治療を理解し、実習を行なうことで技術の習熟を図り、評価からの裏づけをもとに病態の絞込みと動作・生活との関連、適切な理学療法アプローチについて学ぶ。				
到達目標	1. 運動器疾患に由来する特徴的な症状および障害を踏まえた評価項目を過不足無く選択・実施出来るようになる。 2. 評価結果の統合解釈において、病態の絞込み、動作・生活、各評価間の関連を整理し説明・記述ができる。 3. 問題点に対して根拠を持って理学療法プログラムの立案、リスク管理を説明・記述ができる。				
テキスト・参考図書等	筋骨格系のキネシオロジー　第3版 リハビリに直結する！運動器画像の見かた 標準整形外科学　第14版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験にて評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	0%	

履修上の留意事項	・実習中心の授業であるので動きやすい服装で授業に参加すること。 ・運動療法と運動器疾患の復習をして授業に臨むこと。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	足関節	機能解剖・評価・治療
	2	足関節	機能解剖・評価・治療
	3	足関節	機能解剖・評価・治療
	4	足関節	機能解剖・評価・治療
	5	膝関節	機能解剖・評価・治療
	6	膝関節	機能解剖・評価・治療
	7	膝関節	機能解剖・評価・治療
	8	膝関節	機能解剖・評価・治療
	9	股関節	機能解剖・評価・治療
	10	股関節	機能解剖・評価・治療
	11	股関節	機能解剖・評価・治療
	12	腰部	機能解剖・評価・治療
	13	腰部	機能解剖・評価・治療
	14	腰部	機能解剖・評価・治療
	15	腰部	機能解剖・評価・治療

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	肩関節	機能解剖・評価・治療
	17	肩関節	機能解剖・評価・治療
	18	肩関節	機能解剖・評価・治療
	19	肘・手関節	機能解剖・評価・治療
	20	肘・手関節	機能解剖・評価・治療
	21	肘・手関節	機能解剖・評価・治療
	22	機能的エクササイズ	機能的視点からの評価とエクササイズの実際（ダイナミックアライメントの捉え方、メニュー作成など）、サーキットトレーニング・コンディショニングの実際
	23	機能的エクササイズ	機能的視点からの評価とエクササイズの実際（ダイナミックアライメントの捉え方、メニュー作成など）、サーキットトレーニング・コンディショニングの実際

授業科目 （科目ID）	運動器障害理学療法学実習 23p314	担当教員 （実務経験）	小谷　征輝 有 ☑ 無 ☐ 道内整形外科病院にて理学療法士として10年以上勤務
対象年次・学期	3年・通年	担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
授業形態	実習		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	神経障害理学療法学実習 23p315	担当教員 （実務経験）	武田　祐貴 有 ☑　無 ☐　市内脳神経外科病院にて理学療法士として12年間勤務		
対象年次・学期	3年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）	23	時間数	45時間
授業目的	・各疾患の特徴と、それによって生じる運動障害について理解を深める。 ・各疾患の理学療法アプローチについて学習する。				
到達目標	・各疾患の運動障害の特徴について説明することができる。 ・各疾患に対する理学療法アプローチ（評価、プログラム、リスク管理など）について説明できる。				
テキスト・参考図書等	標準理学療法学専門分野　神経理学療法学　第3版 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学　別巻　脳画像				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	各疾患に対する理学療法の実施にあたっては、疾患に対する基礎知識が不可欠である。理解が不十分な人は事前に復習しておくこと。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1～6	脊髄損傷の理学療法	脊髄損傷と、それに伴う運動障害の特徴について学習する、脊髄損傷の理学療法評価について学習する、脊髄損傷の理学療法について学習する
	7～15	片麻痺の理学療法	正常運動と中枢神経障害による運動障害、片麻痺の運動連鎖と理学療法、認知障害と理学療法、片麻痺の歩行と理学療法
	16～23	神経難病の理学療法	パーキンソン病の理学療法、脊髄小脳変性症の理学療法、多発性硬化症の理学療法、筋萎縮性側索硬化症の理学療法

授業科目 （科目ID）	神経障害理学療法学実習 23p315	担当教員 （実務経験）	山本　昌明 有 ☑ 無 ☐ 道内のせき損センターに理学療法士として20年以上勤務
対象年次・学期	3年・通年	担当教員	山内　真帆
授業形態	実習	（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 道内の病院で理学療法士として8年勤務
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	発達障害理学療法学 23p316	担当教員 （実務経験）	樋室　伸顕 有 ☑　無 ☐　市内医科大学で小児分野の研究・教育・臨床活動にて10年以上勤務		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	発達障害児に対する理学療法の考え方、および療育における理学療法の役割を理解できる				
到達目標	1）小児における理学療法評価の項目を列挙し説明できる。2）正常発達の理解を基に異常運動発達を説明できる。3）脳性麻痺のタイプ別特徴を理解し分類できる。4）脳性麻痺における各種介入を理解し説明できる。5）筋ジストロフィー症や染色体異常、小児整形外科疾患の特徴を理解し説明できる。				
テキスト・参考図書等	教科書　Crosslink 理学療法テキスト　小児理学療法学				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	授業中の態度が不良な学生に対しては厳しい対応をする。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	発達障害理学療法総論（1）	発達障害と療育
	2	発達障害理学療法総論（2）	エビデンスに基づいた臨床意思決定
	3	正常発達と異常発達（1）	運動発達の捉え方
	4	正常発達と異常発達（2）	赤ちゃんの運動発達
	5	脳性麻痺とは	その臨床的特徴
	6	脳性麻痺の理学療法（1）	理学療法評価のいとぐち
	7	脳性麻痺の理学療法（2）	理学療法評価－1
	8	脳性麻痺の理学療法（3）	理学療法評価－2
	9	脳性麻痺の理学療法（4）	理学療法介入
	10	脳性麻痺の理学療法（5）	理学療法の実際・まとめ
	11	小児神経筋疾患	筋ジストロフィーに対する理学療法
	12	小児神経筋疾患	筋ジストロフィーに対する理学療法
	13	小児整形外科疾患	二分脊椎、ペルテス病等に対する理学療法
	14	精神運動発達遅滞と染色体異常	ダウン症候群、発達障害等に対する理学療法
	15	重症心身障害	重症心身障害に対する理学療法

授業科目 （科目ID）	発達障害理学療法学 23p316	担当教員 （実務経験）	佐々木　智教 有 ☑ 無 ☐ 小児施設にて理学療法士として10年以上勤務
対象年次・学期	3年・前期	担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
授業形態	演習		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　専門学校北海道リハビリテーション大学校　理学療法学科

授業科目（科目ID）	内部障害理学療法学実習 23p317	担当教員 （実務経験）	竹中　謙将 有 ☑　無 ☐　道内の病院で10年、老人保健施設で5年、理学療法士として勤務		
対象年次・学期	3年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）	23	時間数	45時間
授業目的	呼吸理学療法の基本から応用までを理解する。 循環器理学療法の基本から応用までを理解する				
到達目標	呼吸機能・循環機能障害について理解し、検査法および評価法・治療法を身につける。				
テキスト・参考図書等	フィジカルアセスメント完全攻略Book 最新理学療法学講座 内部障害理学療法学 病気が見える　循環器　第5版 病気が見える　呼吸器　第4版 心電図ドリル　新装版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	前期、後期試験共に合格すること 前期・後期の定期試験100点満点中60点以上を合格とし、本試験で60点に満たないものは再試験にて60点以上を合格とする。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	解剖学や生理学などの基礎知識が重要な科目なので、十分復習して取り組むこと。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション・循環器の解剖・生理学	オリエンテーション、解剖・生理学について復習をする
	2	不整脈・心電図	不整脈に対する考え方・対応方法を学習する
	3	不整脈・心電図	不整脈に対する考え方・対応方法を学習する
	4	虚血性心疾患	心筋梗塞・狭心症の理学療法について学習する
	5	虚血性心疾患	心筋梗塞・狭心症の理学療法について学習する
	6	心不全	心不全の理学療法について学習する
	7	心不全	心不全の理学療法について学習する
	8	症例検討	心疾患の症例検討を実施する
	9	運動耐容能	運動耐容能を評価する必要性を知る・運動処方の考え方を理解できる
	10	大動脈疾患・末梢循環疾患	大動脈疾患・閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症の理学療法について学習する
	11	呼吸器疾患の病態と治療	呼吸器疾患の病態・治療法について学習する
	12	呼吸器疾患の病態と治療	呼吸器疾患の病態・治療法について学習する
	13	呼吸理学療法における評価	評価の手順目的を学習する。評価における理学所見の診察に関し、肺野と胸郭の位置関係を学習する
	14	呼吸理学療法における評価	評価の手順目的を学習する。評価における理学所見の診察に関し、肺野と胸郭の位置関係を学習する
	15	呼吸理学療法の手技	各手技の理論と実技を学習する。

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	呼吸理学療法の手技	各手技の理論と実技を学習する。
	17	呼吸理学療法の手技	人工呼吸療法について学習する
	18	呼吸理学療法の手技	人工呼吸療法について学習する
	19	気管吸引について	気管吸引の実施、リスク管理について学習する
	20	実際の呼吸器疾患に対する評価・治療について	代表的な呼吸器疾患の病態、理学療法評価、治療について学習する
	21	実際の呼吸器疾患に対する評価・治療について	代表的な呼吸器疾患の病態、理学療法評価、治療について学習する
	22	悪性腫瘍	悪性腫瘍についての総論と理学療法
	23	悪性腫瘍	悪性腫瘍についての総論と理学療法

授業科目 （科目ID）	内部障害理学療法学実習 23p317	担当教員 （実務経験）	横野　裕行 有 ☑ 無 ☐ 道内・外の病院で理学療法士として8年勤務
対象年次・学期	3年・通年	担当教員 （実務経験）	佐藤　明紀 有 ☑ 無 ☐ 道内の病院で理学療法士として10年以上勤務
授業形態	実習		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	老年期理学療法学 23p318	担当教員 （実務経験）	横野　裕行 有 ☑　無 ☐　道内・外の病院で理学療法士として8年勤務		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	高齢者に対する理学療法に必要なリスク管理を理解するために、高齢者の身体機能・心理の特徴、高齢者に多い疾患を理解し臨床的応用について学ぶ。				
到達目標	・加齢による身体的、心理社会的変化について学習する。 ・加齢による諸変化（身体的、心理社会的）について説明できる。 ・加齢が運動機能に及ぼす影響について説明できる。 ・高齢者に対する安全で効果的な理学療法について説明できる。				
テキスト・参考図書等	標準理学療法学作業療法学　老年学　第5版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	高齢者に生じる様々な特徴を理解するために、生理学をはじめ、1、2年次に学習したことを各自振り返ること

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション・高齢者とは～グループワーク～	オリエンテーション、「高齢者」についてグループで学習する
	2	高齢者とは ～グループワーク～	「高齢者」についてグループで学習する
	3	高齢者とは ～発表～	「高齢者」についてグループで発表する
	4	高齢者の疫学とPTの関わり	我が国の高齢者の状況・環境を知る 理学療法士は高齢者に何ができるのか考える
	5	加齢による身体の変化①	加齢により、生理的・身体的にどのような変化が生じるかを学ぶ
	6	加齢による身体の変化②	加齢により、機能面・認知機能にどのような変化が生じるかを学ぶ
	7	老年症候群①	老年症候群の概念、代表的な老年症候群について理解する
	8	老年症候群②	フレイル・サルコペニア・低栄養について学ぶ
	9	老年症候群② ～体験～	フレイル・サルコペニア・低栄養について、検査・評価を経験する
	10	老年症候群③	転倒・廃用症候群について理解する
	11	高齢者に特徴的な疾患①	高齢者に特徴的な骨・運動器疾患、ロコモ・運動器不安定症について学ぶ
	12	高齢者に特徴的な疾患① ～体験～	ロコモ・運動器不安定症について、検査・評価を経験する
	13	高齢者に特徴的な疾患②	高齢者に特徴的な呼吸・循環器・神経疾患について学ぶ
	14	高齢者に特徴的な疾患③	高齢者に特徴的な消化器疾患・外科的治療について学ぶ
	15	高齢者の退院支援・地域リハ・最終段階における医療	高齢者の在宅医療、終末期における医療において、理学療法士ができることについて学ぶ

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	スポーツ理学療法学 23p319	担当教員 （実務経験）	綿谷　美佐子 有 ☑　無 ☐　市内整形外科病院等で理学療法士として20年以上勤務		
対象年次・学期	3年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	スポーツ障害・外傷の理学療法領域における、外傷・障害の一般的な評価～治療までの流れと、実際の現場での理学療法士の取り組み、関わりについて理解する。				
到達目標	スポーツ障害・外傷における、その発生要因および誘因、特徴的な症状、スポーツ理学療法における検査、受傷・発症のメカニズム、治療・留意すべき点について、根拠を持って説明・記述できる。				
テキスト・参考図書等	臨床スポーツ医学				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験にて評価する
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	・解剖学、生理学、運動学の復習をして授業に臨むこと。・積極的に質問し、知識を吸収する姿勢で臨むこと。・動きやすく実技に取り組みやすい服装で受講すること。・授業態度の不良な者は厳しい対応をする。・医療人としての適正及び態度が不適な者、学習意欲のない者は授業への参加を認めない。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	上肢のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける上肢外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、・トピックス
	2	上肢のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける上肢外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、・トピックス
	3	上肢のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける上肢外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、・トピックス
	4	上肢のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける上肢外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、・トピックス
	5	下肢のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける下肢外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、・トピックス
	6	下肢のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける下肢外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、・トピックス
	7	下肢のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける下肢外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、・トピックス
	8	下肢のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける下肢外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、・トピックス
	9	頸部・体幹のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける頸部・体幹外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、・トピックス
	10	頸部・体幹のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける頸部・体幹外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、・トピックス
	11	頸部・体幹のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける頸部・体幹外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、・トピックス
	12	頸部・体幹のスポーツ外傷および障害	・スポーツにおける頸部・体幹外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、・トピックス
	13	障害者スポーツ	・障害者スポーツにおける上肢外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、・トピックス
	14	障害者スポーツ	・障害者スポーツにおける上肢外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、・トピックス
	15	障害者スポーツ	・障害者スポーツにおける上肢外傷・障害の理学療法、・スポーツ現場での理学療法士の取り組み・関わり、・トピックス

授業科目 （科目ID）	スポーツ理学療法学 23p319	担当教員 （実務経験）	松本　尚 有 ☑ 無 ☐ 市内整形外科病院で理学療法士として20年以上勤務
対象年次・学期	3年・通年	担当教員 （実務経験）	伊藤　雄 有 ☑ 無 ☐ 市内整形外科病院で理学療法士として10年以上勤務
授業形態	演習	担当教員 （実務経験）	石田　知也 有 ☑ 無 ☐ 市内整形外科病院で理学療法士として5年以上勤務
		担当教員 （実務経験）	三上　兼太朗 有 ☑ 無 ☐ 市内整形外科病院で理学療法士として5年以上勤務
		担当教員 （実務経験）	藤原　誠嗣 有 ☑ 無 ☐ 道内総合病院にて理学療法士として10年以上勤務
		担当教員 （実務経験）	本村　遼介 有 ☑ 無 ☐ 市内整形外科病院で理学療法士として5年以上勤務
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	生活環境論 23p320	担当教員 （実務経験）	竹中　謙将 有 ☑　無 ☐　道内の病院で10年、老人保健施設で7年、理学療法士として勤務		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	障害者・高齢者の生活を支援するために、社会・文化的および物的・人的環境の視点から包括的にハンディキャップを捉えるための基本的知識について学ぶ。さらに、住環境の評価と物的改善技術の知識、他分野の役割と関連について学ぶ。				
到達目標	・福祉用具について説明できる。 ・障害者の環境設定について考えることができる。				
テキスト・参考図書等	配布資料 参考図書：生活環境論 OT・PTのための住環境整備論　第2版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	レポート等の提出物及び内容により評価する。 A：全て提出し、内容が充分 B：1度の提出遅れ、内容が充分 C：2度の提出遅れ、内容が充分 D：3度以上の提出遅れ、又は内容不十分 ※　どのケースにも該当しない場合は精査し、該当学生へ伝える。
	レポート	60%	
	小テスト	%	
	提出物	40%	
	その他	0%	

履修上の留意事項	実習や体験学習の多い学科なので、自ら学ぼうという姿勢を忘れずに授業に臨むこと。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	
	2	環境整備の基本的考え方	・ノーマライゼーション、バリアフリー、・環境整備の個別性と汎用性、・他職種の役割と連携
	3	高齢者・障害者の生活特性と環境整備	・加齢の身体特性、・視覚障害、聴覚障害、・移動能力別にみた環境整備
	4	住宅改造の基本的知識	・建築面の基礎知識、・疾患別にみた整備指導
	5	間取り図の作成	・図面の基礎知識、・間取り図の作成演習
	6	福祉機器の見学	・福祉機器の展示場を見学する
	7	福祉機器の見学	・福祉機器の展示場を見学する
	8	福祉車両の見学	・福祉車両の展示場を見学する
	9	福祉車両の見学	・福祉車両の展示場を見学する
	10	住宅改造	・高齢者・身体障害者に対応した住宅
	11	住宅改造	・高齢者・身体障害者に対応した住宅
	12	住宅改造	・高齢者・身体障害者に対応した住宅
	13	住宅改造	・高齢者・身体障害者に対応した住宅
	14	日常生活用具	・日常生活用具、自助具について学習する
	15	日常生活用具	・日常生活用具、自助具について学習する

授業科目 （科目ID）	生活環境論 23p320	担当教員 （実務経験）	浅賀　忠義 有 ☑ 無 ☐ 市内の病院で理学療法士として勤務し、大学教員としてリハ科学・福祉工学を研究・教育。
対象年次・学期	3年・前期	担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
授業形態	演習		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目 （科目ID）	臨床実習Ⅱ 23p321	担当教員 （実務経験）	竹中　謙将 有 ☑　無 ☐　道内の病院で10年、老人保健施設で5年、理学療法士として勤務		
対象年次・学期	3年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	8単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）	180	時間数	360時間
授業目的	総合的な臨床実習の初段階であり、対象者の評価から治療までの一連の理学療法プロセスを臨床参加型の実習において学習する。また、病院等の組織をはじめリハビリテーション・チームの一員としての運営・管理について学ぶ。				
到達目標	a）対象者の情報収集と検査・測定を迅速に実施できる。 b）収集したデータを統合・解釈し、問題点に対するゴールを立案する。 c）症例の社会的背景を踏まえ総合的な視点から考察する。 d）ゴールに対する理学療法プログラムを作成し実施する。 e）理学療法の基本的な原理を把握し、治療技術を実際に行い再評価を行うことで対象者の変化を把握し、その理由を考察する。				
テキスト・ 参考図書等	臨床実習教育の手引き　第6版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	臨床実習指導者の評定、実習報告会の発表内容等を併せ、総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	20%	
	その他	80%	

履修上の 留意事項	はじめての長期の総合臨床実習なので、真摯な気持ちで患者さんと接し協力していただいている患者さんのために何ができるかよく考えて行動すること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1～10	1. 実習前評価	実習前筆記・実技試験にて、直接対象者に接するに当たり、総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを確認する。
	11～165	2. 臨床実習	各実習施設に赴き実習指導者の指示のもと、評価から治療までの一連の流れを臨床参加型の実習を通して学ぶ。また、病院等の組織をはじめリハビリテーション・チームの一員としての運営・管理について学ぶ。
	166～180	3. 実習後評価	実習における教育成果の判定には実習報告会の内容や提出物等について確認し、実習指導者評価を参考に総合的に判定する。

授業科目 （科目ID）	臨床実習Ⅱ 23p321	担当教員 （実務経験）	浜本 浩一 有 ☑ 無 ☐ 道内外の総合病院等で理学療法士として16年間勤務
対象年次・学期	3年・後期	担当教員 （実務経験）	小野 直也 有 ☑ 無 ☐ 市内回復期病院にて理学療法士として5年勤務
授業形態	実習		
		担当教員 （実務経験）	武田 祐貴 有 ☑ 無 ☐ 市内脳神経外科病院にて理学療法士として12年間勤務
		担当教員 （実務経験）	江戸 香苗 有 ☑ 無 ☐ 道内整形外科病院にて理学療法士として10年間勤務
		担当教員 （実務経験）	元木 純 有 ☑ 無 ☐ 市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務
		担当教員 （実務経験）	横野 裕行 有 ☑ 無 ☐ 道内・外の病院で理学療法士として8年勤務
		担当教員 （実務経験）	吉田 智子 有 ☑ 無 ☐ 道内整形外科病院にて理学療法士として10年以上勤務
		担当教員 （実務経験）	山内 真帆 有 ☑ 無 ☐ 道内の病院で理学療法士として11年勤務
		担当教員 （実務経験）	吉田 香織 有 ☑ 無 ☐ 道内の総合病院に理学療法士として10年以上勤務
		担当教員 （実務経験）	